

ドクターの先輩は? Patr1

どんな研究をしているの?

食肉の偽装を見抜く検査キットをメーカーと共に開発したり、動物が飲んだ飲み水からDNAを検出し野生動物の調査に役立てたりといった、バイオインフォマティクス(生命情報科学)と呼ばれる分野を研究しています。最近では、剥製からDNAを検出することにも挑戦中です。博物館にある化石などからもDNAサンプルを集め、太古に生きた動物から生命情報が引き出せないかと夢を膨らませています。博士課程では、研究テーマを自分の力で見つけ出すことが大切ですし、研究者としての第一歩になると考えてます。



伊藤 文香さん
広島大学 大学院生物園科学研究科
生物資源科学専攻D1

悩むことはムダじゃない。
悩んだ分だけ強くなる。

研究者に憧れたきっかけは?

「科学捜査研究所(科捜研)で働きたい」と思ったのが、この道を選んだそもその始まりなのです。学部内に設置された研究者特別養成コースの一期生として、研究室に配属されましたが、同じコースの中で博士に進んだのは自分一人。修士の時点で就職の内定をもらっていたのですが、いろいろ考えた末に博士課程後期への進学を選びました。周りが社会人となっていく中、正直複雑な気持ちもありましたが、もちろん選んだ道に後悔はありません。だからこその後輩の皆さんには、とことん悩んで覚悟して、進学を決めてほしいですね。



ドクターの先輩は? Patr2

進学を決めた理由は?

植物プランクトンの視点から、海洋環境の変動を調査・研究しています。研究室に入った頃は、学部4年で卒業すると思っていましたが、研究が面白くまだ続けたいという思いから進学を決意しました。さらに学会発表などを経験するうちに、

水産に関わる研究者という道を選択肢の一つとして考えはじめ、博士課程後期に進みました。博士課程後期では、限られた時間の中で学位を取得し、研究者としてのベースもつくらねばなりません。プロジェクトをリードするマネジメント能力や、自分の研究を超えて分野全体を見渡す力なども、3年で培う必要があります。



小原 静夏さん
広島大学 大学院生物園科学研究科
環境循環系制御学専攻D1

目標は学位だけではない。
研究者としての資質を磨く。



ドクターの1日を教えて!

研究室によりますが、私たちの研究室は9時~17時までがコアタイムで、基本的に研究室にいます。フィールドワークとして、月に1度くらいは海に出て、サンプルを採集する作業も行っています。研究で忙しいので一般的なアルバイトはしていませんが、TAやRA、研修会のお手伝いなどにより、学費分は捻出できています。生活費は両親に負担をかけているので、そこは心苦しいところですね。進学前、経済的なことが一番気になっていましたが、両親や先生、周りのサポートもあり、なんとかやりくりできています。

先輩研究者/アカデミック(結婚・出産)

研究者の道を選んだきっかけは?

もともとは体育の教員になりたくて、大学への進学を決めました。大学時代は部活の水球に夢中で、まさか自分が研究者の道を進むとは夢にも思っていませんでした。転機となったのは卒論です。自分でも意外だったのですが、研究が面白くていつの間にか修士に進学していました(笑)。不器用なので進学と同時に部活はやめて、そこからは興味の赴くまま、研究一筋の毎日が始まりました。研究内容にほれ込んだ東京大学の先生のもとへ、週1のペースで授業を受けにも行きました。そうして見聞を広めていくうちに、気付いたら学位が取れていました。



自分が選んだ未来は、
楽しいに決まっている!

緒形 ひとみ 助教
博士(スポーツ医学)
広島大学 学術院
スポーツ科学ユニット
大学院総合科学研究科

研究と家庭の両立は大変?

学位取得と同時に結婚したこともあり、現在は小1と3歳の男の子の母親でもあります。研究と子育ての両立は正直大変ですが、それ以上に周りのサポートに助けられているという思いの方が強いです。私は、たまたま大学という環境の中、裁量労働制で仕事をさせていただいているため、時間は長くなっても調整しやすいのですが、民間企業でも両立の環境整備は進んでいると思います。これから研究者を目指す後輩へ助言するなら、私から言えるのは、「子どもを産んでも産まなくても、楽しい未来が待っているよ」ということです。どんな未来を選んでも思いがあれば必ず道は開けますし、応援してくれる人もいます。私の場合、パートナーが転職してまで支えてくれました。仕事と家庭の両立は、一人で抱え込むことではないと思いますよ。

先輩研究者/一般企業(家庭・仕事)

どんな仕事をされてきたのですか?

長年、技術研究所でコンクリートの研究に携わっていましたが、ずっと現場に出たいと思っていました。そのため、私が心掛けたのは「少しずつ目標を達成すること」でした。周囲に認めてもらうには、他人ができないことを一つずつ増やしていくしかありません。40代で博士を取ると、設計本部に異動になりました。その仕事をがんばって認められると、夢だった現場の仕事に携わることができました。私を登用してくださった所長さんによると、クライアントをやりわりと自分の味方にする、女性ならではの交渉術が買われたようです。



仕事と家庭の両立は大変?

両立できていたと言ったら、子どもに怒られますね(笑)。家族や職場の理解と協力を得ながら、何とかやってきたというのが実情です。現在、弊社では1,700人の土木技術者のうち70人が女性技術者ですが、私が入社した当時は2人だけでした。完璧さを求めるあまり、何でも自分で抱え込んでいたら破綻していたでしょう。状況を変えるには、知ってもらおう努力をし、周りのサポートを得やすくする必要があります。多様な働き方があるように、多様な母親像があってもいいと思えば、少しらしくなると思いますよ。

完璧の必要はない。
多様な働き方と、多様な母親像。

須田 久美子さん
博士(工学)
鹿島建設株式会社
土木管理本部 土木企画部
ダイバーシティ・働き方改革担当部長

